

(国語科) 学習指導 (活動) 案

【実践者】

【関連する SDG s】 (17)

氏名 依田 幸子

学校名 北海道札幌国際情報高等学校

学年 (人数) 高校 3 年生 38 名

実施教科 (領域) 国語 (現代文評論)



【実施概要】

1. 単元名 (活動名) :

国際協力について知り、よりよい世界に貢献する生き方を考える

2. 単元の目標 (評価規準を意識して設定) :

- ・世界の一員、アジアの一員としての意識を高め、国際協力の重要性を知る
- ・近代資本主義と消費社会のシステムの中で、豊かさや幸せについて考える
- ・日本が行っている国際協力を知り、望ましい国際協力について考えを深める

3. 単元計画 (全 6 時間)

時	ねらい	学習活動	資料など
1	<p>○評論を読み、筆者の主張を読み取る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本文の構造を速読で把握し、内容によって 4 段落に分けられること、またそれぞれの段落の関係性を正しく把握した上で、キーワードを入れた要約ができる <p>○正しい相互評価をすることができ、自分の要約の完成度を高めることができる</p> <p>○本文を踏まえた上で自分の意見を論理的に記述することができる</p>	<p>○教科書の掲載されている見田宗介の評論『南の貧困／北の貧困』を読み、200 字要約を書く</p> <p>例) 情報消費社会のシステムは、途上国において「貨幣からの疎外」と「貨幣への疎外」という二重の疎外を生み、開発主義的政策の中で人々の目に見えない幸福を奪っている。先進国でも、システムの発展が創出する新しい「需要」が人々の欲望をかき立て、「普通に生きる」ことを困難にする。豊かな国々の貧困は福祉政策によって救済されるものの、それ自体がシステムの矛盾に対する二次的な手当てであり、消極的なものでしかない</p> <p>○要約で用いたキーワードをグループで共有する</p> <p>○ルーブリックを用いて要約の相互評価を行う</p> <p>○本文を踏まえ「世界の人々の幸福のために未来の自分ができること」をテーマに 800 字で意見論述</p>	<p>世界銀行の世界の国々についてのデータ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データの情報源について言及 ・信憑性の高いデータとは ・データで分かること、分からないこと ・データ分析能力の育成 <p>要約評価用ルーブリック</p> <p>「より詳しく知りたい内容」「他に必要なデータ」について生徒に投げかける</p>
2	<p>○前時の「世界の人々の幸福のために未来の自分ができること」について妥当性と実現可能性を考える</p> <p>○「南」(開発途上国) と「北」(先進国)、両方において生きることを困難にしている二重の疎外について考える</p> <p>○日本社会における貧困について考えを深める</p>	<p>○グループで記述した用紙を交換し、隣の人の考えについて紹介する</p> <p>○その考えについての自分の意見を述べる</p> <p>○グループで一番評価が高かった意見について代表者が紹介し、クラス内でシェアする</p> <p>○本文で述べられる「貧困の定義」についての意見を共有し、「南」(開発途上国) における例を読み、貧困について考える。また、「北」(先進国) の貧困について考え、日本の現状を知る</p>	<p>意見を論述した用紙</p> <p>南北における二重の疎外をワークシートにまとめ、グループで共有</p> <p>日本における貧困について調べるためのタブレット端末</p>

3	<p>○「北」の貧困を救済する福祉について考え、「南」の貧困を救済する方法について考える</p> <p>○「豊かさとは何か」「幸福とは何か」について考えを深め、自分の人生を豊かで幸福にする方法について考えを深める</p>	<p>○筆者は「北」における「福祉」を積極的には評価していないことを踏まえ、どのような問題点があるかを挙げる</p> <p>○「南」における開発主義的政策の失敗した要因について考え、どのような援助が求められているか考える</p> <p>○既習の「近代」「資本主義」「自由、権利と責任」「大量消費社会」等の言葉をも用いながら、人々の豊かさと幸福について考える</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自己中心的な考え方からの脱却 ・一方的な支援では欠点が多い ・社会全体の幸福に貢献することで自らも幸せに近づく <p>といった考え方へ導きたい</p>	<p>福祉の恩恵と弊害について考える資料</p> <p>本文における南での失敗例である開発主義的政策が多くの人々の善意で進められたことを体感するため、立案から実施までの流れを書き込ませるシート</p> <p>*具体から抽象への思考を促す仕掛け。単純に人によって幸せの感じ方は様々だ、といったレベルで思考が停止しないように</p>
4	<p>○日本が行っている国際協力を知り、望ましい支援のあり方について考える</p> <p>○特にキルギスの学校、教育分野における実情から、日本の教育のあり方を見直す態度を身につける</p> <p>○世界で活躍するための資質を考え、高校時代に育む方法を考える</p>	<p>○国際協力とは何かを考え、日本の ODA 執行機関である JICA の事業を知る</p> <p>○双方が笑顔になる支援について考える</p> <p>○キルギスにおける海外協力隊の活動にフォーカスをあてる。特に英語教員として活動する隊員の方からのメッセージを通し、世界で活躍する人材にはどのような資質が求められるかを考える</p>	<p>協力隊員インタビューのプリント</p>
5 本時	<p>○キルギスにおいて成功している OVOP について知る</p> <p>○豊かな発想力でグローバルマーケットに通用する商品を企画する</p> <p>○将来、世界の人々の平和と幸せを推進できる存在であることを認識し、その方法を模索する</p>	<p>○今後どのような国際協力が望ましいかについて、具体的なワークを通して考えを深める</p> <p>○キルギスで販売されている商品を実際に手に取り世界に通用する商品を考える</p>	<p>キルギスの民芸品 活動用シート</p> <p>無印と提携して販売されているフェルトマスコット</p>
6	<p>○専門家である原口明久さんからのフィードバックを通し、振り返りを行う</p>	<p>○自分たちが考えた商品についてのフィードバックを通し、不足していた視点から学び、今後の商品開発に役立てる</p>	<p>専門家からのフィードバック オンラインによるご助言</p>

4. 本時の展開 (5/6)

本時のねらい：有益な国際協力のあり方のひとつとして、キルギスで成功を収めている OVOP 商品を自分たちで主体的に考え出し、提案するよりよい世界にするために自分が社会に関わる方法を考える

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料 (教材)
導入 (5分)	<p>キルギスで実際に行われている国際協力のひとつとして、前時で紹介した海外協力隊の活動の他に、OVOP を紹介する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本で始まった OVOP が、キルギスで大きな成功を収めています ・OVOP という言葉を聞いたことはありますか？ ・北海道地域でも OVOP の取り組みは行われていますが、知っているものはありますか？ 	<p>OVOP という言葉自体は知らなくても、地域おこしや地域活性化、という言葉と繋げる</p> <p>北海道のそれぞれの地域の特色を生かした商品や道の駅で販売されているものについて知っているものを列挙するよう促す</p>	<p>パワーポイント</p> <p>OVOP のはじまりと概要</p> <p>北海道の魅力的な商品</p> <p>日本各地で行われる北海道展はいずれも人気</p> <p>地域の新規開拓商品を紹介</p>

<p>展開① (10分)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・キルギスのお土産を見て、OVOP 提案できるものを考える ・世界市場を考え「売れるもの」を考えたとき、それぞれの商品の魅力と改善点はなんだろう？ どういう工夫をすればみんなが買いたくなる？ 大きな市場に載せるために、どんな企業とタイアップするのがよいだろう？ ・一覧にしたポスターに、ポストイットで「良い点」「改善が必要な点」「工夫の提案」「関心を持ってくれそうな企業」を貼りだしていく 	<p>素敵！と言うけれども、日本で普通に雑貨屋さんで販売されていたら購入するだろうか？ 誰にどんなものを購入するか？ どこでどんなものを売っていたら買いたくなるか？</p>	<p>キルギスで購入した魅力的な商品</p> <p>一覧にしたポスター、書き込み用ポストイット</p> <p>「これはいくらですか？」という質問を待つ。マーケットを考えたときに金銭の価値は重要な要素。</p>
<p>展開② (30分)</p>	<p>各グループで一つの商品を提案</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ラフ画の作成 ・魅力が伝わるような商品名と宣伝文句 ・商品の詳細についてラフ画に描き込む ・売りとなる点は文章で記載する ・商品だけではなく、それに付随する販売促進となるものについても考える <p>例) キルギスの地図、生産者の写真やストーリーをディスプレイに加える</p>	<p>複数のアイデアを出し、その中から一番良いと考えるものを一つにしぼる</p> <p>キルギスと日本、あるいは北海道ならではの良さを生かしたものにする</p> <p>他のグループの人に、どう？ 買いたい？ とリサーチ</p>	<p>スケッチ用の用紙、あるいはタブレット</p>
<p>まとめ (5分)</p>	<p>キルギスで実際に成功しているフェルトマスコットの例を紹介 (JICA と無印の提携)</p> <p>なぜうまくいったのか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本側にとってのメリット ・キルギス側にとってのメリット <p>お互いにメリットがあったから上手くいっている！</p> <p>キルギスの地方で心を込めて作られた商品が、ビシュケク市内の OVOP ショップで、ビシュケクの空港で、そして大阪の無印良品でも売られていることに感動！</p> <p>世界は多くのもので繋がっていることを実感 みんなが幸せになるような商品開発は、望ましい国際協力のひとつのあり方ではないだろうか</p> <p>よりよい世界の可能性は、若いみんなの力にかかっている！</p> <p>最後に「働く一性別役割分業の多様性」の文章の一部を配布し、各自で読むよう指示 何事もさまざまな観点から物事を見て柔軟に考えることが大事であることを伝える</p>	<p>自分たちの商品も採用してもらえそうかグループでシェア</p> <p>キルギスの生産者、私たち消費者、販売する企業、3者にとってメリットがある商品になっているかを考える</p> <p>繋がりを感ずると同時にそのストーリーが消費者の心をつかむ要素になることを知る</p> <p>自分たちも世界を良い方向へ変える力があるかもしれない、という期待と希望をもって授業を終えたい</p> <p>事業を立ち上げ、軌道に乗せるまでに予想される困難、問題点、葛藤、現在想定される問題について考えるきっかけとなるような投げかけを行う</p>	<p>ユキヒョウのフェルトマスコット</p> <p>実際に楽しそうに作業する現地の写真や動画</p> <p>「働く一性別役割分業の多様性」のプリント (筑波大学 2021 年度入試問題より)</p>

5. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法）

○関心意欲態度

- ・世界の一員として自分に何ができるか、を主体的に考えることができているか
- ・目の前にあるものから、イノベーティブな発想を広げ、クラスメイトと積極的に意見交換しているか

○読む能力

- ・前時までの教科書掲載の評論『南の貧困／北の貧困』の内容を正しく読解することができるか

○知識・理解

- ・国際協力や GNI、世界銀行の貧困の定義などの語句を習得できたか

【参考資料】

資料および外部との連携

- ・高等学校現代文 B（三省堂）『南の貧困／北の貧困』（見田宗介）
- ・筑波大学入試問題（2021 年度 国語第 1 問）「働く一性別役割分業の多様性」（中谷文美）

〔ご協力いただいた方々〕

原口明久様（JICA 専門員）、岩井淳武様（キルギス共和国日本人材開発センター（KRJC）共同所長）

原さやか先生、川合孝弥先生、吉本真子先生、伊藤友里先生（JICA 海外協力隊英語教師）

【自己評価】

苦勞した点	キルギスで多くのインスピレーションとインプットを受け、それをどのように形にして授業にするか、というところが一番難しかった。
改善点	実施したいと思ったところを複数の授業に分割し、目的を絞った授業を心がけた。
成果が出た点	キルギスや中央アジアについて知ってもらい、ということ、また国際協力についても掘り下げることができた。
学びの軌跡 (児童生徒の反応・感想文・作文・ノート等)	国際協力についてさまざまな観点からのアプローチにより、興味を持つ生徒が増え、考えが深まる様子を感じた。
授業者による自由記述	生徒の世界観が広がり、心を豊かにするような授業を今後も実施したい。
次年度以降の取組予定	「国際協力」は現代文においても継続的に取り上げられるテーマである。教科書掲載箇所の表面的な読解にとどまらない授業を展開することで、生徒の「柔軟な思考力」と「多角的な視野」を今後も育成したい。

(授業進行の Powerpoint 資料)

	良い点 こんなところがステキ!	改善が必要な点 ここがちょっと...	工夫の提案 こうしたらどうだろうか?	企業 こんな日本/北海道/札幌の企業と提携したらどうかだろうか?
	デザイン/素材/色/モチーフ/実用性/安全性etc...			

キルギスで売られている商品をグローバルマーケットに!



キルギスをはじめとする中央アジア全域の
JICA総括専門家 原口明久氏

多忙を極める原口さんが
フィードバックをくださる予定です!
皆さま、
アイデアを出してみましょう!



実際の作業を拝見
～イシククル州シオルブラック村～




*750ソム(=約1260円)

ビシュケク市内のO.V.O.P.ショップ



*12ユーロ(=約1900円)
参考:アメリカでは26.90ドル(=約4000円) カナダでは29.90ドル(=約3300円)で販売

ビシュケク・マナス国際空港
出発ロビーにあるショップ



国際協力の一つの形
世界に通用する商品開発
～キルギスでの経験から～



北海道札幌国際情報高等学校
依田 幸子

国際協力とは？
定義を考えてみよう！
起源はいつ頃だと思いますか？

国際協力とは・・・
世界中の平和と発展を目的とした
国境を超えた
援助・協力活動のこと



起源は・・・
19世紀の赤十字活動ともいわれている

今年2024年はODA70周年の記念すべき年！
政府開発援助 (ODA, Official Development Assistance)

TOP 5カ国		中央アジア5カ国	
1位 米国	26,854,600	52位 KAZ	245,695
2位 中国	19,373,586	71位 UZB	92,332
3位 日本	4,409,738	74位 TKM	82,649
4位 ドイツ	4,308,854	141位 TJK	12,962
5位 インド	3,736,882	142位 KGZ	12,039

世界各国のGDPデータより
～2023年IMF(国際通貨基金)～単位(百万US\$)
世界195の国のうち150カ国以上が開発途上国

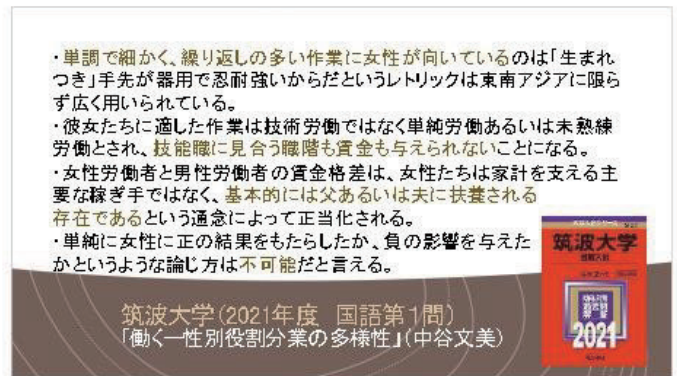
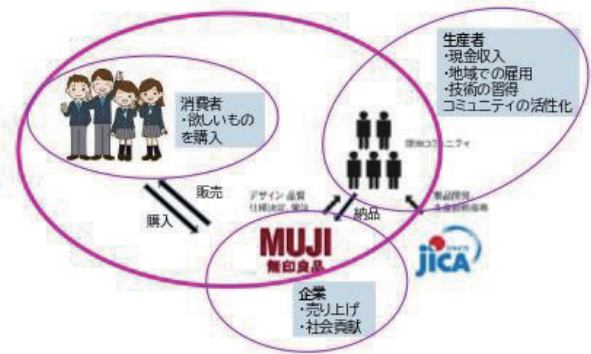
キルギスで成功している
「O.V.O.P.」を知ろう！



一村一品運動
One Village One Product movement

- ・1980年から大分県で始められた地域振興のプロジェクト
- ・原点は日田郡大山町(現・日田市)が1961年から行っていたNPC運動(New Plum and Chestnut運動)
『梅栗植えてハワイに行こう』
- ・「ローカルにしてグローバル」という標語のもと、「全国・世界に通じる物を作る」

日本から世界に広がりをもせる
一村一品運動とは？



【授業実践その後】

国際文化科の生徒を対象とした授業では、商品案を考えるとところまでしか実施できなかったが、グローバルビジネス科の生徒を対象とした授業の中で、実際に生徒が商品開発に挑戦し、JICA 専門家である原口さんからフィードバックをいただくことができた。

左側が生徒が作成した商品案であり、右側が原口さんからのコメントである。

また、このフィードバックをいただいた後、オンラインでキルギス・ビシュケク市内にある OVOP ショップにいらっしゃる原口さんと Zoom でつなぎ、販売されている商品を見せていただきながら OVOP についての説明を受け、今回の商品開発について生徒が直接コンセプトを伝えるなど商品 PR を行い、直接コメントやアドバイスをいただくという貴重な機会を設けることができた。

好評価ポイント

オイモ柄を石鹸に入れるのはいいアイデアですね。ちょうどキルギスの石鹸グループの品質改善に取り組んでいるので、早速採用しようかな！クールなオイモの形とバランスが必要ですね。作っているグループの名前がブグエネといって現地語で鹿の角という意味なので、伝統的オイモから鹿の角デザインがあるので、それを使っても面白いね。

チャレンジポイント

詰め合わせや高級パッケージはいい考え。しかし、コストが高くなるので、石鹸の品質がかなり高くないと、価格に見合う商品にならないのが課題。LUSHなどの大手との連携もいいアイデアだが、大量生産や石鹸工場の国際スタンダード認証などが連携の条件となり、小規模グループには難しい。

好評価ポイント

オイモ柄をワンポイントにするのはすごくかわいいですね。ウマイエネハート、すごー。キルギスに関わらず、伝統的な模様やパターンを使ったハンディクラフトは多いけど、伝統にこだわり過ぎる部分があるからこうやって身近に感じるように工夫することがすごく重要です。開発視点ポイントとして大変すばらしい。

チャレンジポイント

ワンポイントマークやブランドマークをどうやって広めるか？これが最大の課題。デザイン性やマーケティングと絡んで来るけど、何の説明もなく、若者が「ほしい」と思わせるセンスが必要。UNIQLOだと、キルギスというより中央アジア全体で意味を成すようなロゴなら可能性ありかもね。

キルギス伝統模様の
ワンポイントソックス
Cグループ

表 裏 模様 模様の色

くつしたの色
・紺

素材
・ポリエステル
・ボウワウ

長さ
・13cm・28cm

<企業協カ>
・UNIQLO・GU
・ZOZOTOWN 他にも...
・C.M
・ポスター

好評価ポイント

キルギスを訪れる観光客向けのお土産にいいですね。キルギスの天然のメリノウールを使ったソックスならさらにお土産としては最高。マークの意味を解説していて、お客さんが意味を読んでプレゼントとして選ぶのはいいですね。青年海外協力隊の隊員さんがキルギスのソックス企業と連携した事例もあるので、これも打診してみます。

チャレンジポイント

たぶん、キルギス人の若者だとNORTHFACEとか有名ブランドを選ぶ。そうすると買い手は外国人でお土産用になってしまう。地域の人々がメリノウールで手編みで作ると収入源になって良いかも。

キルギス産 **白い はちみつ** 化粧水

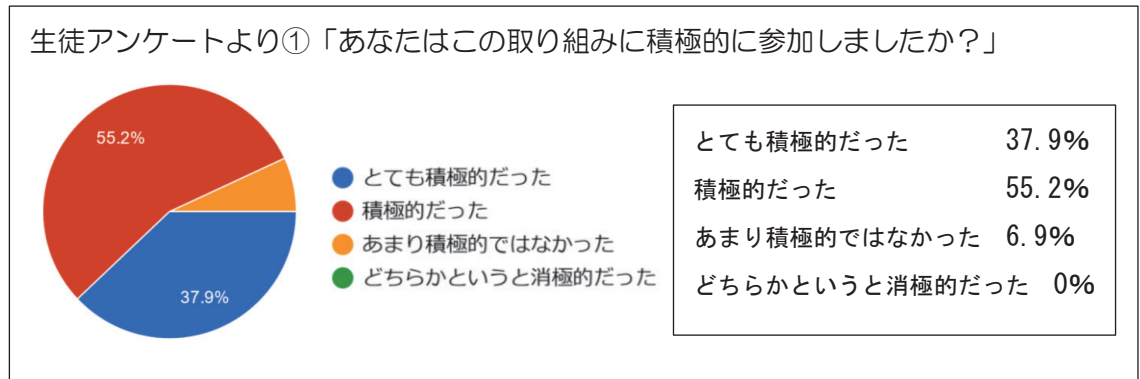
POINT 1
上から見た...
POINT 2
まぶた...
POINT 3
POINT 4
日本のオーガニック
25x7.5cm
とダイヤ...!

好評価ポイント

白い蜂蜜化粧水！いい！現在実際にエスバルセット蜂蜜の石鹸やリップを試作中。白い蜂蜜は、一つの花から採れる蜂蜜だけど、同じ花からの花粉量を70%以上にしなくては真っ白にならない。白い蜂蜜のイメージと化粧水はすごくいいですね。開発してみます。このボトルも蜂蜜用ならいいデザインですね。

チャレンジポイント

化粧水なのでこのボトルだとちょっと使いにくいね(笑)。課題はオーガニック。オーガニック証明のためにもすごい大変な取り組みが必要。お金も数百万円も必要。すでに化粧品会社との連携が打診されてるけど、キルギスの田舎の養蜂家では到底オーガニック認証は無理なので、違う方法で取り組みます。



『キルギス』 スマホケース

キルギスにアンティーク布デザイン。

実際にOVOPで売っているTシャツデザイン

好評価ポイント

花とオイモの組み合わせデザインはキルギスの伝統的な刺繍にもあって、上手くデザインすればうけるかもしれない。ちょっと派手なデザインにして目立つようにしてもいいかもね。右のキルギス景色版は、Tシャツとして

チャレンジポイント

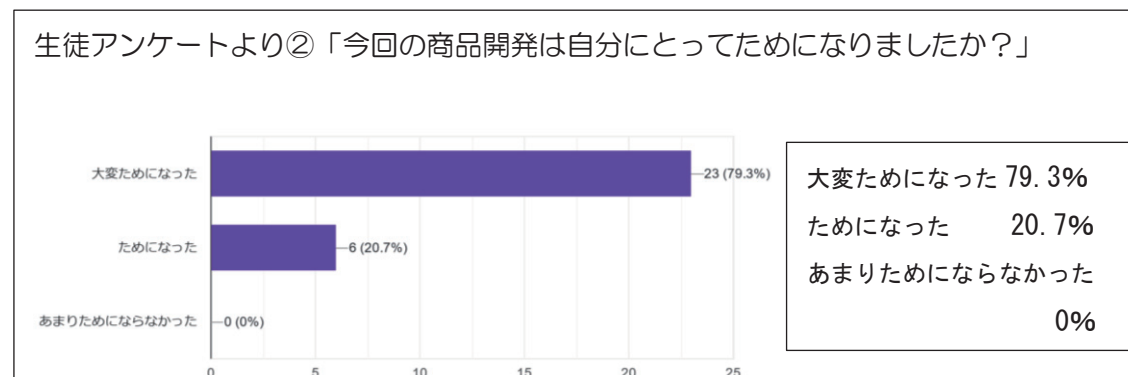
スマホケースの場合は、どうしてもプラスチックになってしまうね。そうすると大量発注なので、ストラップ付のスマホケースカバーだと少量生産できる。ミシンや手での刺しゅうも可能だけど、すごい少量生産になるね

いける男を演出、コピーライト的にいいね。

いける男を演出、コピーライト的にいいね。こんな感じのフォーマル系にオイモ柄は意外と無いので、発想的に面白い。結婚式とかの正装用のシャツやアイテムにかっこよくつけるのはクール。ブランドマークとして、品質の高い商品とのコラボが必要だね。今治マークいいね。

株式会社マクンとタイアップ

いける男を演出するには、刺しゅうマークを付ける商品の品質が重要だね。フォーマルな服装が仕事以外のデートでも少しづつ流行ってきているからこれからはやるかも。フォーマルな洋服とかの会社を見つけてタイアップできると可能性が広がるね。



【授業後の生徒感想】

【今回の取り組みについて】

- ・キルギスの良さを生かしつつ新しいものをみんなで意見を出し合い、深く考えて案を出していくことが楽しかった。また、フィードバックももらえて貴重な経験になったし実際に開発してみたいとも思う。
- ・海外で活動している人と話してフィードバックをもらうことでより自分たちのアイデアを深めることができ貴重な経験になった。
- ・初めて世界に共通するようなマーケティングをしてみて、さらに、マーケティングを仕事としている人からフィードバックをいただいてマーケティングをしていくうえで頭に入れておくべきポイントを知ることができ、楽しかったです。
- ・実際に商品開発をしている方のお話を聞いてとても勉強になりましたし、商品開発の疑似体験ができて楽しかったです。
- ・自分とは言葉も文化も異なる人々のために何か新しいことを考えるのはとても楽しかったし、かわいいデザインで自分が欲しくなっていました。
- ・他国の特産を考慮し商品を考えるという経験は、とても楽しく、どうしたらよいものを作るか班のみんなで考えることがとてもためになりました。
- ・商品開発をする際に、日本人の視点で、キルギスの良さを伝えることが難しかった。キルギスのもつ刺繍や木彫りなどの特色をもっと面白く活かしてみたいと思った。
- ・日本以外の商品開発は考えたこともなかったので異文化理解にもつながってとても楽しかった。流行りも好みも少し違うかもしれないけど、そんな中で全世界に通用するような商品を開発するのは難しいと改めて感じた。また実際に世界的に活動している企業は本当にすごいと思いました。
- ・開発者と顧客のバランスをうまくとりながら製品を作ることの難しさを痛感しました。
- ・日本とは全く違う文化をもつ国で商品開発をするためには、その国を理解することが必要不可欠だと気が付いた。
- ・キルギスの文化やその伝統を意識しながら、実際にどんなものだとより多くの人々の胸に届くかなと、考えながら商品を考案することが楽しかったです。

【原口さんからのフィードバックを受けて】

- ・現地の人から直接アドバイスを頂いたのは貴重な経験だなと思いました。また現地で働く人と繋がることで学校内だけで考えるよりもより現実的になるなど感じました。
- ・考えるのは楽しかったけれど、どうやって開発するか、大量生産するか、売り出すか、さらには全工程で必要になる費用まで考えたうえで案を出さないと、実現には至らないのだと思った。
- ・企業とタイアップしたいのであればもっとその企業の方向性などもよく考える必要があるということ学ぶことができました。
- ・まず驚いたことは、すべての商品に対して肯定的な感想をくださったことです。私は、商品開発は、それはそれは素晴らしいアイデアでないといけないという自分で自分の首を絞めるような考えをもっていました。しかし、原口さんはすべてのアイデアに対して肯定的で、やってみようという精神で強く尊敬しました。
- ・素材を変えたほうがいいのかの自分たちでは見つけられなかった改善点を見つけることができ、さらに国際マーケティングの知識を深めることができました。
- ・商品開発には需要と付加価値が重要だと改めて感じた。
- ・キルギスのような小さい国では大量生産や機械を使った仕事が難しいということを考えて商品を考えるのが難しかった。原口さんが仰っていたプラスチックを使うことの難しさを最初から判断できたのはよかった。地域の特性を活かした商品を考えることができたと思うし、キャッチコピーや設定もうまく考えられたと思う。
- ・商品の製作費よりもパッケージの製作費が上回ってしまったり、流通にかかる費用だったりビジネスに関するお話がとても印象に残っています。また、男性用の商品が少なく、商品開発も難しいというのも衝撃的でした。
- ・実際に原口さんと話してみて、一見画期的なアイデアでよく見えても、すべての班がその背景に問題点や改善点が潜んでいると思いました。人が買いたくなるような商品を考えることは決して簡単なことではないと感じました。
- ・首都と田舎の格差があるからこそ、商品開発によって首都に勝つという考えや首都の人たち、国外の人たちにも買ってもらえる商品を作って浸透させていくことを学ぶことができました。

わたしの一枚

タイトル： あたたかい気持ちで満開になった桜の木



写真を撮った場所： キルギス天才日本学校

首都ビシュケクにあるキルギス天才日本学校と、ナリン州コチコルにあるアラバエフ学校を訪問させていただいた際に交流の時間を設けていただいた。私の勤務校である札幌国際情報高校の生徒たちが「木」を書いてくれた紙を現地に持参し、訪問団の先生方の生徒たち、そして訪問先の生徒たちに思い思いの「好きな言葉」を桜の花びらを模した紙に書いてもらい、貼っていった。日本語、英語、ロシア語、キルギス語、そこに書かれた数々の素敵な言葉に胸が熱くなった。アラバエフ学校の原さやか先生が、私たちの帰国後も、学校の先生、生徒、スタッフの皆さんがさらに書き加えてくれ満開になった桜の木の様子を写真に撮って送ってくださった。人と人との交流は時間と場所を超えて思いを繋ぐものだと感じている。今後も心がふれあうような交流を継続していきたい。

氏名： 依田 幸子

学校名： 北海道札幌国際情報高等学校